

愛媛医療センター

【施設概要】

昭和14年に傷痍軍人愛媛療養所として開設された当院は、戦後は主に結核療養所としての役割を担ってきました。その後、国立愛媛療養所、国立療養所愛媛病院、独立行政法人国立病院機構愛媛病院となり、平成25年に病院名を現在の独立行政法人国立病院機構愛媛医療センターとしました。



当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。また重症心身障害児（者）病棟やNICUの後方支援病棟である「ポストNICU」病床を有し、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、高次の循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリや生活習慣病対策にも力を入れています。平成28年4月からは松山医療圏域の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

【放射線科】

当院の放射線科は、放射線科医2名、診療放射線技師7名、受付1名が在籍しています。

装置は、一般撮影装置、DEXA、MRI、CT、SPECT、X線TV、血管撮影装置、ポータブル装置、外科用イメージが稼働しています。

2021年9月にMRI、2022年1月に血管撮影装置、2022年12月に外科用イメージの更新と慌ただしい時期となりましたが、地域医療の貢献へと繋げるべくスタッフが一丸となって精進しております。

【周辺環境】

皿ヶ嶺連峰県立自然公園の中にある高さ96mの滝、重信川の上流、表川白猪越の溪にかかり、その落下する姿はまさに自然の偉大さを感じさせます。秋には紅葉の隙間から滝の水が流れ、冬の厳しく寒い時期には氷の彫刻といった幻想的な景色がうかがえます。



正岡子規や夏目漱石などもこの地を訪れ、多くの短歌や俳句を残したことで知られる景勝地。滝見台や遊歩道も整備され誰でも訪れやすい滝となっていますので、近くに来る機会がありましたらぜひお立ち寄りください。